

うるま市のごみ処理経費・ごみ搬入量・資源化量等について

中部北環境施設組合に搬入されたごみ量はここ数年減少傾向にあり、令和6年度のごみ量も前年度と比較して減少しておりました。市民一人当たりのごみ処理に係る経費が多額でありますので、より一層うるま市が推進するごみ分別、リサイクルの取り組みを徹底し、ごみの減量化を図る必要があります。

1. ごみ処理経費

経費区分	金額	市民1人当たり 年間負担金額	1世帯当たり 年間負担額
ごみ収集運搬等諸経費	2億9,626万円	2,334円	5,045円
負担金	ごみ処理経費	12億4,805万円	9,833円
	最終処分費	2,808万円	221円
ごみ処理総事業費	15億7,239万円 (15億7,795万円)	12,388円 (12,478円)	26,777円 (27,440円)

*()内の数値は令和5年度実績です。



リサイクリンちゃん

2. ごみ搬入量

ごみの種類	令和5年度	令和6年度	前年度比較	市民1人当たり 1日の排出量	1世帯当たり 1日の排出量
可燃ごみ	34,611 t	33,889 t	-722 t	729.5 g	1,576.8 g
不燃ごみ	899 t	811 t	-88 t	17.4 g	37.7 g
粗大ごみ	782 t	786 t	4 t	16.9 g	36.6 g
資源ごみ	缶 類	268 t	0 t	5.8 g	12.5 g
	びん類	847 t	-20 t	17.8 g	38.5 g
	ペットボトル	432 t	18 t	9.7 g	20.9 g
	古紙類	808 t	-18 t	17.0 g	36.8 g
合 計	38,647t	37,821t	-826t	814.1g	1,759.8g

3. 資源化量

種 類	令和5年度	令和6年度	前年度比較
缶 類	254 t	240 t	-14 t
金属類	504 t	456 t	-48 t
びん類	816 t	796 t	-20 t
ペットボトル	411 t	403 t	-8 t
古紙類	680 t	626 t	-54 t
古布類	6 t	5 t	-1 t
蛍光灯	17 t	14 t	-3 t
乾電池	36 t	31 t	-5 t
スラグ	2,390 t	2,250 t	-140 t
メタル	45 t	39 t	-6 t
合 計	5,159t	4,860t	-299 t

* 令和7年3月末の人口126,933人、世帯数58,721世帯、令和6年3月末の人口126,454人、世帯数57,505世帯です。

* 端数処理をしている為、数値が一致しない場合があります。

* 資源化量の金属類は、不燃ごみ・粗大ごみから破砕・分別して出てきたものです。

* 資源ごみ搬入量と、資源化量の数値の違いは、手選別作業による異物除去のためです。

4. 最終処分量

種 類	令和5年度	令和6年度	前年度比較
飛 灰	1,203t	1,123t	-80 t

* 負担金とは、ごみ処理事業を行う為に必要な経費をうるま市から中部北環境施設組合にあてる、ごみ処理経費です。



ごみを減らす4R運動を実践しよう。

ごみを減らすためには、一人ひとりがごみを減らす意識を持つことが大切です。そこでごみを減らす4つのRを心がけて、環境にやさしく、大切な資源として活かす取り組みを始め、ごみ減量へのご協力をお願いします。

1. リフューズ のR → ごみを持ち込まない。	○ 不用品は買わない、貰わない。 ○ ごみになる物は断る。 ○ マイバックを持参しよう。
2. リデュース のR → ごみを減らす。	○ 必要なものを必要な量だけ購入する。 ○ 食品を買いすぎない、作りすぎない、食べ残さない。 ○ 生ごみは十分な水切りをする。(生ごみの約8割は水分)
3. リユース のR → 再使用する。	○ 使えるよう修理してみる。 ○ 別の使い方を考える。 ○ 欲しい人にゆずる。
4. リサイクル のR → 再利用する。	○ 資源を正しく分別する。 ○ 買ったお店で回収ボックスを利用する。 ○ 生ごみを堆肥にする。